調査ノート　儺神の誕生日

廣田律子

仮面が御神体として祀られる江西省万載県の沙江祠では、旧暦九月一日が主神の誕生日とされ、人々が参詣に訪れる。一九九五年は十月二四日がこの日にあたり調査を行った。

願い事のある家にむかえられて、祀られていた九体の御神体は、前日の夜までに廟に戻される。

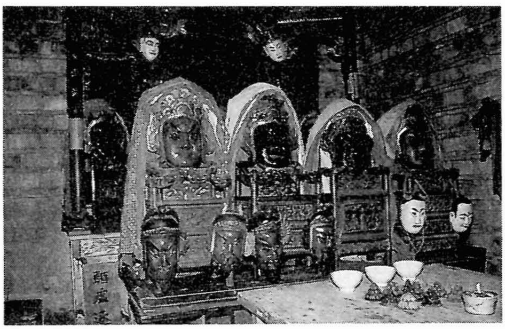
それぞれ貸し出されていた状況は以下の如くである。

老大爺	池溪村	丁礼根家	家内安全祈願
新大爺	〃	丁仕泉家	〃
二爺	〃	丁水根家	子供の成長祈願
老三爺	〃	丁根生家	新築安全祈願
新三爺	〃	丁成福家	病気回癒 〃
四爺	天楊村	丁苟妹家	新築安全 〃
老四娘	池溪村	丁雲蘭家	出産安全 〃
王将軍	〃	丁吉安家	新築安全 〃
新四娘	天楊村	丁炎生家	出産安全 〃

ソーナや太鼓やドラが鳴り響き、爆竹や打ち上げ花火がとどろく中、御神体は廟に迎えられ、座につき、線香がたかれ紙銭が燃やされる。

誕生日当日は、朝から村内はもとより近隣の村々から人々が参詣に訪れる。願い事は種々だが、特に子授かりや病気平癒を願う人が多い。また昨年の願いがかないお礼に訪れる場合もある。鶏・豚・果物・糜糍と称する餅等の供物や線香、紙銭、ローソクをたずさえてくる。

まずローソクを点し、線香に火をつけて、中央の御神体、右側の土地神、左側の総兵神にそれぞれ線香をささげる。中央の台にひざまずき拝礼をする。



廟を入ってすぐの中庭に置かれた鉄鍋に紙銭を入れて燃やし爆竹をならす。

願い事のあるものは神籤の棒の入った竹筒を振り、最初に落ちた棒を拾い、占具を投げ表裏がそろうと、その棒が自分の卦であるとして、棒上に書かれた番号の神籤の紙をもらいに行く。同時に二角（約二円）払う。占具の表裏がそろわなければそろうまで何回も神籤の筒を振らなければならない。

神籤の竹筒には、「一誠有感」「普降萬霊」「葯竿筒」と書かれており、運勢をみるものと、病気治癒のための薬材を見るものにわかれている。

運勢をみる神籤は上上から下下まで六四通りの内容がある。また薬材をみる神籤も六四通りで、それぞれ違う薬材が数種類書かれている。

特に病気を治したい者は、線香立ての中の灰を一服ずつに包みわけて頂いていた。この灰をお湯に入れて上澄みを飲むとよいとされる。

数キロ離れた宜春市からきた二十歳代の女性は昨年の九月一日に子授かりを願ったが、その後に妊娠し無事男の子を出産し、お礼参りに子供を抱いてきていた。鶏を供物として供え、線香紙銭を燃やし、子供の無事な成長を祈っていた。

二キロ離れた嶺東郷からきた一家は、やはり昨年、母方の祖母が願掛けをし、無事子が授かったのでお礼にきていた。二人の祖母、三四歳の父親、父方の姉が一ヶ月の乳飲み子を連れていた。お礼に御神体の頭上にかける汗巾と称する一メートル四方の布を奉納し、子供の無事な成長を祈っていた。布は祭りを主催する案首の手で老三爺の頭上にかけられた。

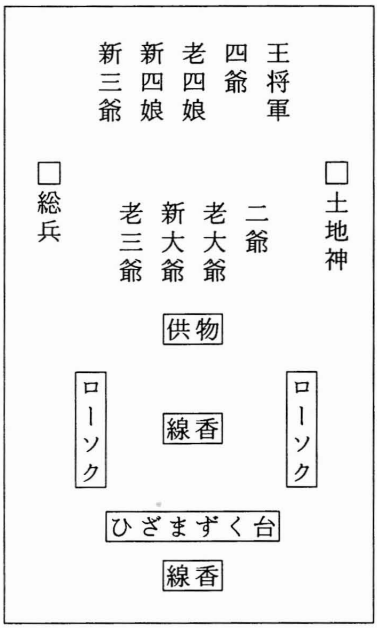
布には次のように記されていた。

勅封沙江橋金甲将軍麾下
神光普照
信士嶺東郷周海西会同郭春華合家酬還
一九九五年九月初一

また子供を守る銀製の腕輪を御神体の前で案首につけてもらう者もいた。この時やはり占具で占いをし、子供に腕輪をつけ赤い糸を手にまいた際、雛首は子供の手に雛神勅令と描いていた。

人々が散々ごご訪れる中、ソーナと笛と太鼓とシンバルのお囃子が絶え間なく奏され、打ち上げ花火と爆竹の音が時々ものすごい音を立てていた。

御神体は全部で九体あり、次のように前後に並べられていた。



御神体で文革中焼かれず守られたのは、老大爺・二爺・新大爺・老四娘・老三爺・王将軍の六体で、新三爺と新四娘は一九八六年に、四爺は一九八九年に新しく彫りなおされた。中でも主神とされる老大爺は明代の作とされる。御神体として祀られる契機として、ある人に張万寿という歴史書にも記録のない人物がよりついて、自分は張万寿だが守護してやるからまつるようにと告げた為、御神体に彫られまつられたとされる。高さ約六〇センチ、幅四〇センチ程で、地は黒色、目は大きくどんぐり形で、山形に飛び出させ、飛び出させた中央に釉子を埋め込み、目の外側の端を少しあける。鼻は大きく中央に座り、。鼻こうはあけず、眉毛は逆八字に細くきりっと彫し、眉間に力強くしわを寄せる。口は赤くきりりと結ぶ。頭には模様が鍍金された紫金冠を被る。耳はやはり模様を鍍金された半円形のものを左右につける。冠の上には二メートルの長さの刺繍を施した布製の角隠しのような大鳳帽を被る。丁寧な彫りと彩色で、年代を感じさせる秀作である。塗りの剝げた場所から漆が重ねられた様子が分かる。

御神体は誕生日の日の夕方には、また願い事のある人々の家へそれぞれ借り受けられ、はやしの鳴り響く中、廟を後にする。

人によりつき仮面に彫され、祀られるようになった神々は総称して欧陽金甲大将軍と称され、また大菩薩とあがめられている。将軍として、神兵神馬をひきいて悪霊を退散させる強い力は、大きな飛び出した目にあらわされる恐ろしげな形想にも表現されている。一方大菩薩として、特に子授かり、子育て、病気治癒に霊験あらたかとされ、人々に慕われている。その誕生日には願掛けお礼参りの人々が絶えないが、子を授かった人々の明るい笑顔、灰を包みながら必死で病人の治癒を願う人々の真剣な顔に深い印象を受けた。